

陶磁器質タイル張り下地調整 施工要領書

セメント系下地調整厚塗材（ポリマーセメントモルタル）

ベース #40

JIS A 6916 建築用下地調整塗材 CM-2 表示認証製品

二瀬窯業株式会社

1. 適用範囲

本要領書は下地調整塗材であるベース#40 をコンクリート下地に対して行う、内・外壁陶磁器質タイル下地調整工事に適用する。

2. 製品の概要

名称	粉体重量/袋	加水量/袋	練上量/袋	標準塗厚	標準施工面積		
					3mm 厚	5mm 厚	10mm 厚
ベース#40	25kg/袋	約 5 リットル/袋	約 18 リットル	3～10mm	6m ²	3.6m ²	1.8m ²

備考
セメント系下地調整厚塗材(ポリマーセメントモルタル)
適合する公的規格・・・ JIS A 6916 建築用下地調整塗材 CM-2 表示認証製品

※ 塗りつけのポイント (重要)

練り混ぜたベース#40 を一度下地にこすりつけながら、コテ庄を十分加えて厚くならないよう1度の塗り厚を3～4mm程で塗りつける。その後、同様に塗り重ね所定の厚さに調整する。

下地には細かな凹凸があり、ベース#40 にも練り混ぜ時の連行空気があるため、十分な圧力を加えて塗り付けないと下地との接着界面に空隙ができる恐れがあり、これが強度不足や接着不良といった要因になるため十分に留意する。(下地調整材間の塗り継ぎも同様)

3. 施工時の環境条件

降雨・降雪時、またはこれらが予想される時は原則として施工を行わないこととする。

気温が3℃以下および施工後3℃以下になると予想される場合は、原則として施工を行わないこととする。

施工面に対し直射日光を受けないよう足場シート等による防護を施す。

4. 施 工

(1) コンクリート面の処理

コンクリート表面のジャンカなどの不良部分は、十分にはつり取る。さらに表面のレイタンスや型枠剥離剤等の不純物の除去、接着界面の平滑化を防ぎモルタルの付着性を良くするため、超高圧水洗浄法による目荒しを推奨する。

超高圧水洗浄法・・・吐出圧 150N/mm²、ノズル距離 10cm 以内、運行速度はコンクリートの強度・材質により異なるが、下地に直径 5mm ほどの螺旋が複数に重なるよう描く速度とする。

詳しくは JASS19 陶磁器質タイル張り工事に解説写真が掲載されているのでこれを目安とする。

(2) すみ出し・厚さチェック

図面を参照の上、基準すみ出しを行う。

すみ出し後、水系をたるみなく張り、厚さの確認を行う。

(3) 補 修

露出した金属部材はあらかじめ防錆処置を施す。

下地の面精度は長さ 2mにつき 6mm以内とし、木コンやジャンカ、目違い部などの不陸の著しい箇所は、本要領書 4. (6) による吸水調整を施し、ポリマーセメントモルタルで補修および不陸調整を行う。補修後は原則として、夏期で 7 日、冬期で 14 日以上放置する。

(4) 目地の取り付け(伸縮調整目地の設置)

コンクリート面及びびびり割れ誘発目地部分に、木製・プラスチック目地棒またはスタイロフォームを取り付ける。目地を設ける位置は次による。

水平方向

- ・ 各階の水平打継部
- ・ 階高が 5m以上になる場合はその中間

垂直方向

- ・ 柱際
- ・ 開口部際
- ・ 無開口壁の場合は 3m内外
- ・ 建築物のコーナー・隅切部
- ・ 建築物の取合い部

その他 構造上の要所

あたりの設置は目地棒間に定木の届く範囲 (1.2~1.5m程) で設置すると良い。コーナー部にはコーナー定木を取り付ける。

(5) 施工周辺の養生

サッシなどの周辺部材には汚れが付着しないようポリフィルム等により養生を施す。
施工面に対し直射日光を受けないよう足場シート等による防護を施す。

(6) 吸水調整

下地調整前日に下地となる面全面に吸水調整を施す。
吸水調整には水湿または吸水調整剤を塗布する工法の2通りあり、当該工事の仕様に従う。

※吸水調整剤を使用する場合はユニレックス3の3倍希釈液を推奨。

3倍希釈割合	ユニレックス3	水道水	標準塗布面積 270m ²
	18kg/缶	36kg	

(7) 下地調整

①ベース#40の塗り付け

a) 練り混ぜ

モルタルミキサー等の機械器具を使用し約3分程度を目安にダマが出来ないように練り混ぜる。(過度の練り混ぜは空気連行を増幅するため注意する。)

割合…ベース#40 25kg + 清水 約5.0ℓ

練り上がった材料は40分以内(冬期60分以内)に使用し、練り足しや加水しての練り返しは行わない。

b) 塗り付け

練り混ぜたベース#40を一度下地にこすりつけながら、コテ圧を十分加えて厚くならないよう1度の塗り厚を3~5mm程で塗りつける。その後、同様に塗り重ね所定の厚さに調整する。

下地には細かな凹凸があり、ベース#40にも練り混ぜ時の連行空気があるため、十分な圧力を加えて塗り付けないと、下地との接着界面に空隙ができる恐れがあり、これが強度不足や接着不良といった要因になるため十分に留意する。(下地調整材間の塗り継ぎも同様)

※ 総塗り厚が10mmを超える場合

1日の塗り厚は8mm以下とし、3日以上養生を経て塗り重ねを行う。下塗りや中塗りの際、金コテ押えは行わない。

塗り継ぎの表面に粉塵が付着した場合は水洗いを行い、白華現象が生じた場合はワイヤーブラシ等で除去し水洗いを行う。(接着不良の原因となるため)

- ※ 壁塗り厚 25mm 以上、下面塗り厚 15mm 以上、およびセットバック（斜壁）施工の場合
壁面で 25 mm 以上、下面で 15 mm 以上の下地調整を行う場合は、コンクリートにア
ンカーピンを打ち込み、溶接金網またはネットなどを取り付けた上で、ベース#40
を塗りつける。また、タイルの厚さを加えた総仕上げ厚が壁面で 45 mm、下面で 35
mm を超える場合は同様の補強を行う。
セットバックについては塗り厚に関係なく同様の補強を必ず行う。

セットバック（斜壁）は垂直壁と異なり、雨掛かりの多いことから防水層が設けら
れる。防水層の上にモルタル下地を作製してタイル張りを行うだけでは、長年の間
の防水層の劣化、防水層とモルタル層の接着力の低下により、モルタル層とタイル
が落下する危険性がある。

② 塗り付け作業の工程間隔（下塗り～上塗りまでの養生期間）

原則として工程の間隔は、3 日以上とする。

③ 仕上げ

a) 定木ずり

塗りつけた材料が軟らかいうちに余分な厚さ部分をかき取る。

b) 木ゴテ押さえ

水引き具合を見計らい、木ゴテを使用して均し押さえを行う。

凹部ができた場合、ベース#40 を充填し木ゴテで均す。

注意： 定木ずりや木ゴテ押さえは、もみ過ぎたりタイミングが遅くなりすぎると接着界面
にズレを生じさせる恐れがあり、剥離の原因となるため注意する。
また、水打ちを行っての木ゴテ均しは行わない。（表面強度の低下や白華現象が生
じ易く、タイル工事において接着不良の原因となる）

(8) 養生

タイル工事を行うまでは、14 日間以上の養生期間をとる。

降雨・降雪・強風・直射日光を避けるためシートを張るなどの養生を行う。

- ※ 施工時および施工後の気温が 30°C を超えるような場合は、施工翌日に散水養生を行う。

(9) 清 掃

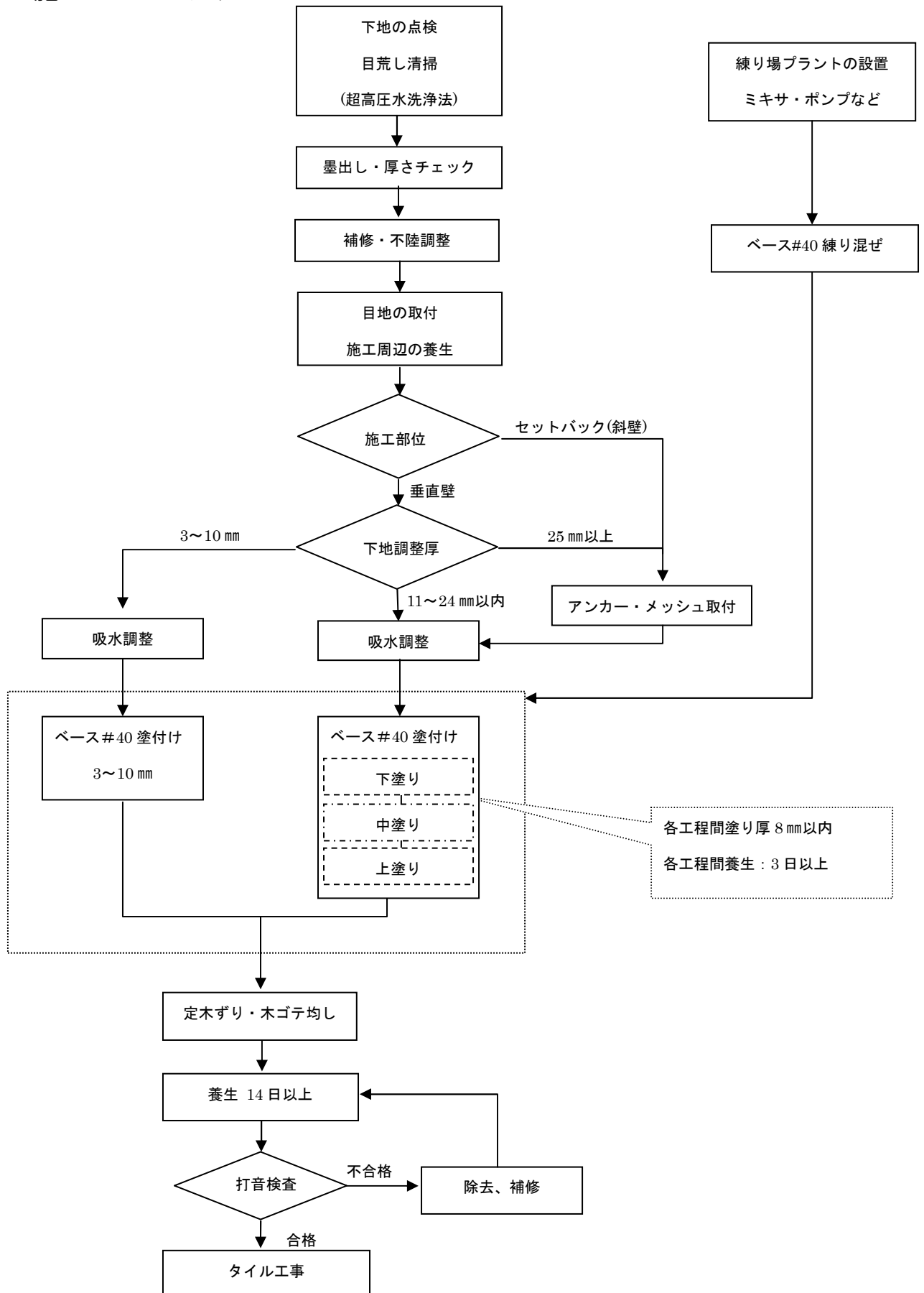
足場上のこぼれ材の清掃及び、取り外したスジカいを元に戻す。

(10) 検 査

① 浮きの検査

仕上げより 14 日以上経過した後、打診棒を用いて施工面全面について打音検査を行う。

5. 施工のフローチャート



■ 取り扱い注意事項

- ・ 製品は製造年月日を確認し、3ヶ月以内にご使用下さい。
- ・ 製品の保管は直射日光や水濡れを避ける場所とし、パレットなどに載せて床への直置きを避けて下さい。また、必要に応じてシート掛けなどによって保護して下さい。
- ・ 開封した製品は、その日のうちにご使用ください。
- ・ 練り混ぜに使用する水は、水道水等の清浄水を使用して下さい。
- ・ 指定材料以外は混入しないで下さい。
- ・ 製品のご使用に際しては、防塵マスク、防塵眼鏡、保護手袋など着用の上、適切な安全対策を実施して下さい。詳しくは、製品安全データシート(MSDS)をご参照ください。

本要領書は、新しい技術情報等の入手により断りなく改訂することがありますことをご了承下さい。

二瀬窯業株式会社

本社：〒820-0044 福岡県飯塚市横田 669
TEL (0948) 22-0447 / FAX (0948) 29-0289

営業所：東京 TEL (03) 3437-0023
大阪 TEL (06) 6583-3310
名古屋 TEL (052) 509-2485

2010.11